

平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	吉備国際大学				
取 組 名 称	医療・福祉領域の連携スキル学習プログラム				
取組学部等	社会福祉学部、保健科学部				
申 請 区 分	教育方法の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A22213	申 請 の 形 態	単 独	取 組 期 間	3 年
申 請 の 分 類	専門基礎	体験活動		職業教育	
キ ー ワ ー ド	連携スキル学習プログラム, 3領域合同演習, 着眼トレーニング, 学習ポートフォリオ, シチュエーションロールプレイ				

<選定理由>

本取組は、大学の教育方針である「豊かな人間性と専門性の修得」のもとに、質の高い専門職者を養成するために「対象者（利用者）主体」をテーマに社会福祉・看護・作業療法の3領域が協働する実習を行い、連携力を養成しようとするものである。取組は総合的教養教育と専門教育との融合的なアプローチであり、具体的には3領域の専門職者が協働する場面を設定し、ロールプレイを中心に体験型演習を通して、協働力を養わせようというものである。その特徴としては、実社会の現場と具体性の希薄な教育現場のギャップを少なくするために、学科を超えた合同演習の場を設け、協働の必要性を実社会に出る前に体験されるところであり、大いに教育効果が期待されるところである。

例えば、取組にはPDCAサイクルを導入するとしながら、Pの段階における詳細な計画が十分ではないことなど、若干不十分な点は見受けられるものの、取組の視点が非常に良いこと、社会福祉・看護・作業療法の3領域が協働する実習を構築しやすい環境が大学に備わっていることから、前述の点についても改善を図りつつ、他大学の参考となる大きな効果を生み出すことを期待する。

取組の概要【1ページ以内】

この取組は、本学の教育方針である「豊かな人間性と専門性の修得」を目指して、質の高い専門職者を養成するために「対象者（利用者）主体」のアプローチを社会福祉・看護・作業療法領域（以下、3領域）の教育課程の共通テーマとして導入し、**連携力の養成を位置づける**ものである。3領域が対象となるのは、各専門性の習得のために実習教育が位置づけられており、共通する老人保健施設が実習先であり、またこれらのすべての学科を本学は有しているからである。

連携力に焦点を当てる理由は、近年、医療・福祉領域では、全人的ケア、統合ケアや包括ケアなど、対象者への**総合的な支援の重要性**が強調されているためである。「連携」の力は、総合的支援の要であり、その力の必要性は対象者を主体的にとらえることに始まる。連携力は、実践の質を左右する重要な要素でありながら、養成課程では連携の重要性は概念的な伝達にとどまり、実践に応じた具体性を学ぶ機会はあまりない。どのように業務に臨めば良好な連携が実現するのか、その具体的な実践力を養成するニーズが潜在している。本取組は、他の専門職者と共同して対応する**着眼点トレーニング**の意味もあり、また連携を具体的にイメージできるための実習の準備教育の一環である。取組では、**3領域合同演習の場**を設け、**連携スキル学習プログラム**を組み入れ、実習における課題も与えて実践における連携の技能を具現化させる。

合同演習では、3領域の専門職者の連携において課題となる場面を提示し**ロールプレイ**を中心とする**体験型演習**を行なう。この場面の構成は、老人保健施設の3領域の実践者への聞き取りと参与観察によって行なった調査（平成18年度に実施、科学研究費）の結果を基盤としており、具体的な連携の実情と課題が反映された**プログラム**である。このため、実践に即したりアリティのある課題対応型の演習が実施できると考えている。この場面を重視した演習方法は独創的なものであり、これを「**シチュエーションロールプレイ**」と名づける。

この取組によって、連携力の養成の流れは「講義による知識の教育」 「**連携スキル合同演習教育**」(本取組) 「実習教育（現場・臨地での実習）」 「専門職者としての実践」(就職)となり、実習教育の前段階に、連携力の具体的な行為を体得するための3領域合同演習を位置づける。今まで連携に関する多職種間の合同演習は他にもみられるが、連携の技能をスキルとして明確化する視点は甚だ未開拓である。本取組により、学生一人ひとりのコミュニケーションや連携の力、演習効果などの測定（**自己・他者による評価**や**学習ポートフォリオの活用**）を行ない、内容の修正を重ねて、プログラム内容や合同演習方法を完成させていく予定である。

本取組を通して、学生が卒業後、就職先で他職種と出会い、初めて連携を意識するのではなく、教育現場（実習教育）において出会う仕組みを構築し、大学と実践現場との乖離をなくす意図がある。本取組では実習先の指導担当者は学生の個別評価および演習自体の評価を担当し、**大学と実習機関との協働による連携力の教育**を位置づけていく。大学と実習機関を円滑につなぎ、実習の教育的効果をあげる。この取組のなかで隣接する専門職者を目指す学生同士が接触をもち、対面的コミュニケーションを活発化させ、相互に専門性の比較や検討を行ないながら、連携スキルの養成を実現し、協働できる姿勢と能力を備えた専門職者、他の専門性を理解した上で考え行動できる専門職者の養成を目指す。相互の役割を意識化し、連携方法の円滑な導入をはかり、自分の業務や発する言葉が他領域へ与える影響や、**役割の連鎖を体得**することを促進する。

この取組は、学内教員の領域を越えた協働的教育の力を促進し、実習機関での教育を担う指導担当者を学生や演習に対する評価者として構成し、連携力養成を軸に、**学生同士、大学教員、実践現場担当者の学びのコミュニティ形成**を目指すものである。